

聖マリア病院小児科を受診されている患者様、患者様ご家族へ

乳幼児から小児期では尿路感染症は頻繁に認めるもののひとつではありますが、なかでも急性巣状細菌性腎炎は検尿異常を認めにくい例も多く、診断のために造影腹部 CT 検査が必要となります。膀胱尿管逆流症（vesicoureteral reflux, 以下 VUR）を伴う頻度も多く、尿路感染を繰り返し、腎瘢痕化もきたしやすいため初回の感染時に十分な加療、管理（十分な抗生剤静脈投与期間、VUR を含めた精査、VUR の程度による抗生剤予防内服など）を行うことは大変重要です。

そこで現在、2012 年 9 月～2015 年 9 月の間に当院当科を受診された一か月から 15 歳まで方で、発熱を認め、熱源精査のために腹部造影 CT 検査を行った方の受診時のデータを使用させて頂き、統計学的解析を行っていくことで急性巣状細菌性腎炎の診断予測因子を検討したいと考えております。これにより、強く急性巣状細菌性腎炎と予測される方には早期に造影腹部 CT 検査を行うことで急性巣状細菌性腎炎の診断をすることができ、逆に予測されない方では不必要な検査を減らすことができると考えております。

今回の研究内容は過去の診療録の記載内容を使用する、後方視的な研究であることから、対象の患者さまには新たなご負担は発生しません。データに関しましては収集した調査内容は対象が特定できないように匿名化を行い、研究責任者が研究終了後から 5 年間厳重に長期保存・管理します。+研究が終了した時点から 5 年間の保存義務年限が過ぎたら、直ちに資料・情報を復元不可能に破棄消滅処理いたします。

今回、対象となります方々、もしくはご家族の方々には今回の掲示を持ちまして包括的な同意を頂いたものと致したいと思っております。同意を頂けない方、ご質問のある方は下記研究責任者までご連絡してください。

聖マリア病院小児科

河野 剛